

建築家というのは粹な職業だ。

彼らが手掛ける建造物は、その細部に、  
分身のように精神を吹き込み、見る人を  
魅了することができる。

日本を代表する唐津市出身の建築家で  
ある辰野金吾（たつのきんご）博士が手  
掛け、今年で築100年目を迎えた「武  
雄温泉楼門」、そしてその奥に佇む「新  
館」は、生涯、建築家で在り続けた辰野  
博士の情熱が宿る名建築である。

取材を通し、その真の魅力を改めて感じた。

## 特集

# 朱の情熱

楼門とは、上部に花見や宴をする部屋を設けた門を言う。武雄温泉楼門は、釘を一本も使わない独特な技法もさることながら、鎌倉時代の梁の組み方など、様々な技術の結集であることが、大きな魅力である。